

授業を受けるルール

2月6日にトルコ南部のシリア国境近くで、マグニチュード7.8の地震が発生しました。この地震により亡くなった人が4万人を越えました。連日の報道では、懸命な救助活動の様子や、奇跡的にガレキの中から救出される人の姿が伝えられています。一方、大切な家族、家等を失い耐え難い悲しみや不安に直面している姿が伝えられ、世界各地からの支援の輪が広がっています。



大震災で思い出すのは2011年3月11日に発生したマグニチュード9の「東日本大震災」です。震災は津波の被害が大きく、死者は1万5千人を超え今もなお復興活動が続いています。

ここで気になるのが、**なぜ?** マグニチュードが大きかった日本の方がトルコよりも被害者数が少なかったのか? 住んでいた人口数(母数)の違い、密集度など様々なことが考えられますが、一番大きな原因は**建物の強度**と言われています。安全基準を満たしていない建物が多くあったこと、**なぜ、守らなければならないルールを守らなかったのか**が問われ始めています。

ものづくりを学ぶ皆さんは、このことをどう思いますか。授業で決められた時間に、決められたことをやる。安全・安心なものづくりを実現するためにルールを守る。**そんな、「当たり前」なことができない**ことで、大切な家族や家を失ったとしたら・・・**ものづくりは社会を、私たちの生活を支えています。**

皆さんの「社会をよりよくしたい」という「ものづくりの心」を、少しでも困っている人たちのために使ってみてください。トルコで被災している人たちは、どのような状況ですか。社会の先生に**トルコと日本の関係**を聞いてください。理科の先生に**トルコの気温や気象**を聞いてください。英語の先生に**コミュニケーションをとる方法**を聞いてください。国語の先生に支援団体への**手紙の書き方**を聞いてください。工業の先生に「**ものづくり**」支援を相談してみてください。**生徒会、クラス、部活などなど**・・荒工には仲間がいます。やってみろ! 荒工生!

あらこう散歩

【全日】第一次世界大戦が起きた理由、終戦から第二次世界大戦に突入していくドイツの様子を伝えるのは社会科の三浦先生。敗戦したドイツがどのような経緯で第二次世界大戦に及んだかを考えることで、**悲惨な戦争を二度と起こさせない国際社会を実現しようという「意気込み」**を強く感じる授業でした。



特に、ドイツが第二次世界大戦に突入するまでの8枚の歴史カードを、グループで話し合い、順番に並べ、その理由を発表しあう活動は「**素晴らしい**」の一言です!



「未来を創る! 彩る! 荒川工業」